

福島県沿岸におけるホシガレイ天然個体の増加

福島県水産資源研究所 種苗研究部

部門名 水産業－栽培漁業－その他カレイ類

担当者 平川直人

I 新技術の解説

1 要旨

福島県では 2018～2020 年に震災前の 5 倍程度に相当する 18 万尾以上のホシガレイ種苗を放流したが、2020 年の漁獲物に占める放流個体の割合は 6.2%であり、震災前の混入率が 7 割程度であったことと比較し低かった。2019 年福島県沿岸漁業総漁獲量は、震災前 (2010 年) の 14.0%であった。一方、ホシガレイ漁獲量は 2016 年以降増加し、2019 年は 1.8 トンと 2010 年の 58.1%であり、総漁獲量の比(2019 年/2010 年)と比較しても高かった。これらのことから、福島県沿岸におけるホシガレイは、天然資源が増加しているものと推察され、今後の漁獲量の増加が期待された。

- (1) 2018～2020 年に 18.0～24.2 万個体のホシガレイ種苗を放流した (図 1)。この放流量は震災前 5 年 (2006～2010 年) 平均 4.1 万個体の 5 倍程度であるが、2020 年 (11 月末現在) 漁獲物に占める放流個体割合は 6.2%であり、震災前の混入率よりも低かった(図 2, 3)。
- (2) 2019 年試験操業の総漁獲量は 3,641 トンであり、震災直前 (2010 年) 総漁獲量 (25,914 トン) の 14.0%であった。
- (3) ホシガレイ漁獲量は、試験操業である中、2016 年以降増加し、2019 年は 1.8 トンであった。2010 年漁獲量は 3.1 トンであり、2019 年漁獲量はその 58.1%にまで回復しており、福島県沿岸漁業漁獲量の 2010 年と 2019 年の比と比較しても高かった。(図 4)。
- (4) これらのことから、福島県沿岸におけるホシガレイは、天然資源が増加しているものと推察され、今後の漁獲量の増加が期待された。

2 期待される効果

- (1) 資源の状態を把握することで種苗放流等の適切な資源管理方策の策定が可能となる。

3 適用範囲

- (1) 漁業関係者、行政担当者、研究者

4 普及上の留意点

- (1) 特になし

(様式 1)

II 具体的データ等

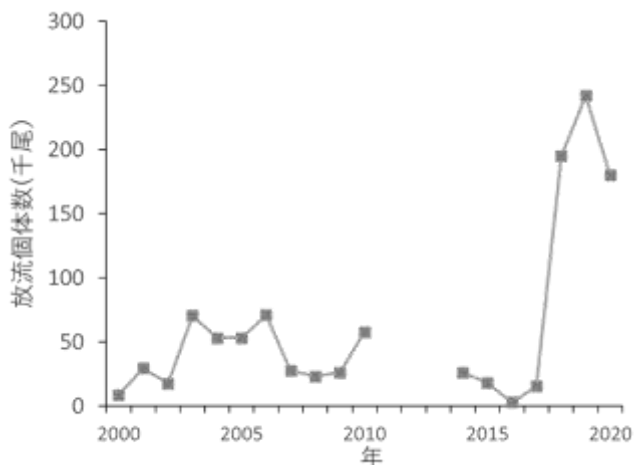


図 1 福島県における 2000-2020 年のホシガレイ種苗放流個体数

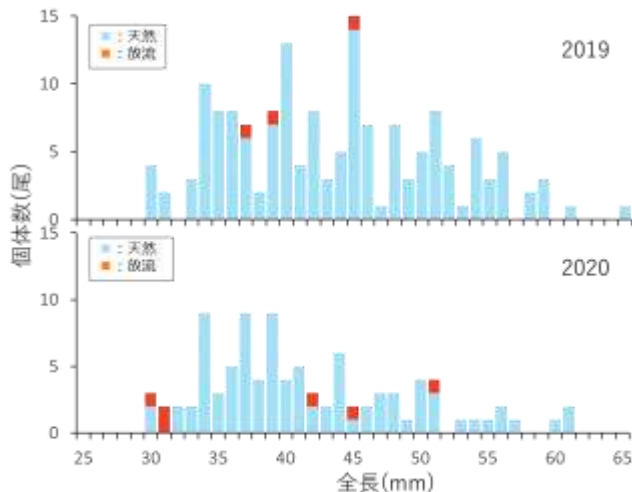


図 2 相馬原釜地方卸売市場に底びき網・さし網漁船によって水揚げされたホシガレイの全長組成

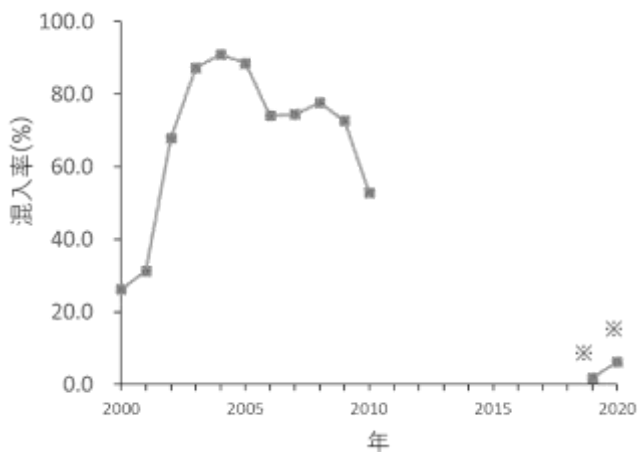


図 3 福島県における 2000~2010 年のホシガレイ混入率。
※2019、2020 年は調査個体に占める放流個体の割合

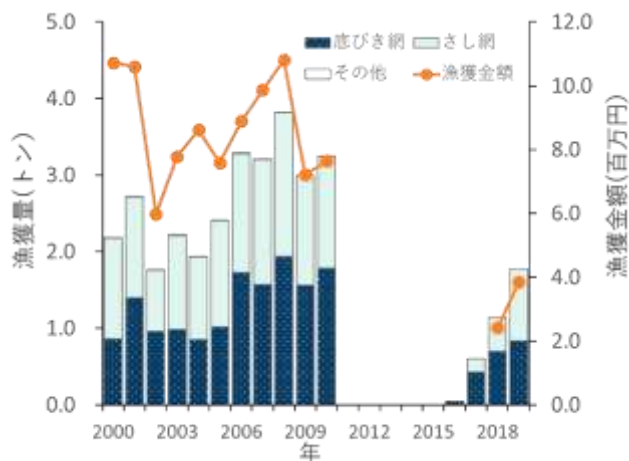


図 4 福島県における 2000~2019 年のホシガレイ漁法別漁獲量と金額。2016 年以降は試験操業の値を示す。

III その他

1 執筆者

平川直人

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 28~令和 2 年度
- (2) 研究課題名 栽培漁業対象種の放流技術に関する研究

3 主な参考文献・資料

- (1) ホシガレイに関する研究－II 漁業実態と福島県沿岸における生活史, 島村信也・安岡真司・水野拓治・佐々木恵一・根本芳春, 福島県水産試験場研究報告書第 14 号,2007, p69-90.

*本研究の成果は、水産庁委託事業（さけ・ます等栽培対象資源対策事業）によって得られた。